

# 田尻洋一の



稀代のアーティスト  
田尻洋一が生駒にやってくる!

とことん

# ベートーヴェン & ショパン



正義の味方



憂国の戦士

「正義の味方 ベートーヴェン」と「憂国の戦士 ショパン」偉大な音楽家の真の姿を「孤高のピアニスト 田尻洋一」がとことん掘り下げてお届けするトークコンサート!!

2022年 **12月4日(日)**

14:00開演 (13:15開場 16:00終演予定)

オーケストラの名曲をピアノ一台で再現  
♪ベートーヴェン「交響曲 運命」  
♪ショパン「英雄ポロネーズ」  
「幻想即興曲」「革命」他

## たけまるホール 大ホール

奈良県生駒市北新町9-28 (近鉄生駒駅徒歩約2分)

・会場には駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

チケット 1,000円

全席指定【高校生以下無料(要入場整理券)】

10/16(日)10:00からチケット・入場整理券を販売・配布します。  
当日券は、残数がある場合のみ、たけまるホール2階ホワイエにて販売・配布します。

■チケット取扱い：たけまるホール  
北コミュニティセンターISTAはばたき  
南コミュニティセンターせせらぎ  
鹿ノ台ふれあいホール  
生駒市図書館

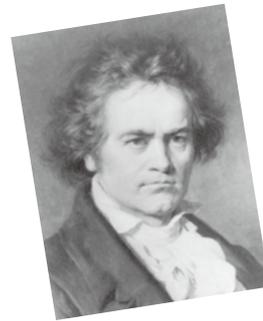
■お問い合わせ：ブーケ企画 富宅 (ふけ)  
☎090-3702-4030



- ・館内では、必ずマスクを着用してください。
- ・発熱や熱を伴う咳症状がある方は、入館をお断りしています。
- ・新型コロナウイルスの影響で開催内容を変更または中止する場合がございます。ご了承ください。(中止の場合、市のホームページ等にて返金のご案内をいたします。)
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みに皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## ベートーヴェン & ショパン ヒストリー

1770年 (0歳) ドイツのボンで誕生  
 1774年 (4歳) 父から音楽を教わる  
 1778年 (8歳) ケルンで演奏会に出演  
 1787年 (17歳) ウィーンへ行く。母マリア体調を崩しすぐに帰国。母死去  
 1792年 (22歳) ウィーンへ。ハイドンに弟子入り。父死去するも帰郷せず  
 1795年 (25歳) 難聴の兆候始まる  
 1799年 (29歳) ピアノソナタ「悲愴」  
 1801年 (31歳) ピアノソナタ「月光」  
 1802年 (32歳) 難聴の苦悩からハイリゲンシュタットの遺書を執筆  
 1804年 (34歳) 次々と傑作を生み出す円熟期。交響曲「英雄」  
 1808年 (38歳) 交響曲「運命」、「田園」  
 1809年 (39歳) ピアノ協奏曲「皇帝」



1818年 (48歳) ピアノソナタ「ハンマークラヴィーア」  
 1824年 (54歳) 交響曲「第九」  
 1827年 (57歳) 病死

1810年 (0歳) ポーランドのジェラゾヴァ・ヴォラで誕生  
 1814年 (4歳) 母や姉からピアノを習う  
 1817年 (7歳) 「ポロネーズ」(現在のポロネーズ第11番ト短調)  
 1818年 (8歳) ワルシャワで初の演奏会、「モーツァルトの再来」と称賛される

1826年 (16歳) ワルシャワ音楽院入学  
 1830年 (20歳) ウィーンへ発つが失敗  
 1831年 (21歳) パリに逃げるように到着。「革命のエチュード」  
 1834年 (24歳) 「幻想即興曲」  
 1838年 (28歳) ジョルジュ・サンドと交際。療養のため、ともにマヨルカ島へ  
 1840年 (30歳) サンドとともにパリへ戻る  
 1841年 (31歳) 「英雄ポロネーズ」等名曲が次々と生まれる  
 1847年 (37歳) サンドとの決別  
 1849年 (39歳) 病死

### 田尻洋一 プロフィール



コンサートピアニスト。  
 1962年生まれ。桐朋学園大学卒業後、渡欧して天才イディル・ピレト女史の唯一の弟子として研鑽を積む。1996年より作曲家別の全曲演奏という独特な演奏スタイルを中心に活動を開始する。

これまでにベートーヴェンの32ピアノソナタ全曲コンサートを5度、モーツァルト及びシューベルトのピアノソナタ全曲、シューマン及びブラームスピアノ作品全曲コンサートを2度開催済み。他にもショパン24前奏曲+24練習曲コンサート、リスト12超絶技巧練習曲全曲コンサートなども開催。

2000年より管弦楽曲のオリジナルソロ編曲版を次々と演目に取り入れる新たなジャンルを確立。2012年にはオリジナル編曲による「第九」「運命」「田園」「英雄」などベートーヴェンの9交響曲全曲を、2019年にはブラームスの4交響曲全曲演奏を完遂。他にも「未完成」「新世界」「悲愴」交響曲や、「皇帝」などのピアノ協奏曲、オペラ序曲、室内楽、歌曲作品に至るまで数多くのオリジナル編曲作品を手掛ける。

圧倒的なレパートリーに裏付けられた音楽に対する深い造詣と教養、独特の柔らかく透き通る音と自然な息遣い、そして心底か

ら感動を沸き立たせる演奏。それらオンリーワンの魅力とともに、一期一会の生演奏にこだわり続け「心から心へ」をモットーに、真に芸術性高い真摯な演奏活動を展開。

日本各地でのリサイタルは1000回をはるかに越え、2010年はアメリカ、2011年からは毎年2回のペースで欧州リサイタル公演を継続中。2014年は日本スイス国交樹立150年記念リサイタルに2度招かれる。人気シリーズのコンサートも数多く、伊丹トーク&ピアノコンサートシリーズは第88回、明石リサイタルシリーズは第111回を数えるロングラン。

国際ピアノコンクール審査員(スペイン、ルーマニア)歴任。スタインウェイハンブルク本社よりスタインウェイアーティストの称号を授与されている。2010年初リリースされた伊丹ライブ録音による「ベートーヴェン交響曲第7番(田尻編曲)」が毎日新聞にて絶賛される。2021年無観客ライブによる「バッハのゴールドベルク変奏曲」、2022年田尻編曲ベートーヴェン交響曲全集ライブより「The Live I・II」のCDを相次いでリリース。

